

No.29

2008.3.28

いしかわ

の

遺跡

発見! 最古の木製笠塔婆と板碑



珠洲市野々江本江寺(のえほんこうじ)遺跡より、平安時代末期から鎌倉時代前期の木製の笠塔婆(かさとうば)と板碑(いたび)が全国で初めて出土しました。
絵巻物「餓鬼草紙(がきそうじ)」(国宝・平安時代末期)に描かれた木製とみられる笠塔婆や板碑と同じ形をしています。

これまでの笠塔婆や板碑の研究では、それらは木製から石製へ変化したと考えられてきましたが、直接、それを証明する資料はありませんでした。
今回の発見は、まさにそれを裏づけるもので、中世の墓制や墓標の始まりを考える上で極めて貴重な資料といえます。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成19年度
発掘調査から

五歩市遺跡

JR松任駅から北東へ約1.3kmに位置する五歩市遺跡^{こほいち}は、手取川扇状地上に立地する弥生時代から古墳時代及び鎌倉時代から室町時代にかけての集落跡です。海側幹線関連事業(国道改築一般国道305号及び緊急地方道路整備(街路))を調査原因として、12,510㎡を対象に発掘調査を実施しました。

弥生時代から古墳時代の集落跡は、調査区中央部を北西方向に流れる旧流路周辺及び南側の微高地上に広がりを見せており、竪穴建物や掘立柱建物、柱の不等沈下を防ぐための工法が施された布掘建物などの建物群を確認しました。

竪穴建物は、4m程のものから約11mを測る大型のものまで大小様々であり、屋内施設についても、炉などの形態や作り方に差異が認められました。また、出土遺物についても、床面や屋内土坑から甕や壺、高杯といった土器がまとまって出土する建物や、管玉の未製品を多く出土する建物などがみられたことから、(竪穴)建物の機能や構造に多様性がうかがわれます。

一方、鎌倉時代から室町時代の集落跡は、調査区の南側で広がりを見せており、屋敷地を区画する溝や掘立柱建物、土坑などを確認しました。掘立柱建物は区画溝の北及び内側となる東側でまとまりがみられ、底をもつものも確認しています。出土遺物には、珠洲焼や五輪塔の一部、青磁、白磁などがありました。



弥生時代の大型竪穴建物



竪穴建物屋内土坑土器出土状況



鎌倉時代から室町時代の区画溝



玉づくり関連出土品
(上段：管玉未製品、下段：左より軽石製砥石、ヒスイ破片、勾玉未製品)

七尾城跡

七尾城跡は、七尾市街地から南東へ約5kmの通称「城山」に位置しています。能登国の守護畠山氏の居城で、山上の城郭と麓に展開する城下町が良好に遺存している貴重な遺跡です。

一般国道470号能越自動車道(七尾氷見道路)建設に伴う城下町の発掘調査は、平成17年度に着手し、今年度が3年目となりました。平成17・18年度の調査では、作業場とみられる遺構や、かわらけや土壁などに使う土を取った土坑が検出されたほか、鉄滓、坩堝などの鍛冶や鑄物関連の遺物、金を溶かした坩堝、甲冑の一部や刀装具なども出土し、商工業者が居住する城下町(町屋)の様子が明らかになりました。



三の丸付近から見た七尾市街と七尾湾

今回の調査では、両側に石組み側溝を持ち、砂利舗装が施された「大手道」や、総構の堀と切岸などが検出されたほか、屋敷地を区画する石垣や石組みの溝、屋敷に伴う大型の竪穴状遺構、井戸、布掘り掘立柱建物なども検出され、七尾城の城郭構造や城下町(屋敷地)の様子が明らかになりました。

主な出土品には、土師器、陶磁器のほか、碁石、銅銭、「永禄(1558～1570年)銘の石造狛犬台座、裏面に絵が刻まれた硯、漆器などがあります。今後、出土品の整理・分析等により、それぞれの遺構の性格や、城郭及び城下町の変遷などについても明らかにしていきたいと考えています。



本丸へ向かう大手道



総構の堀



現地説明会の様子



大量に出土したかわらけ



平成19年度 話題の遺跡講座「前方後円墳のまつり」

平成19年11月11日(日)、石川県立生涯学習センターにおいて、「前方後円墳のまつり」と題して、東海大学文学部教授の北條芳隆先生にご講演いただきました。



列島に登場した最初の王権の象徴といわれる前方後円墳の被葬者が、生前に民衆の上に君臨した王や首長だったという証拠はどこにあるのか、そうではなくて、彼ないし彼女は「人身御供」だったとみるべきではないのか、という衝撃的な問いかけから、ご講演では、新たな前方後円墳祭祀像までが提唱されました。

従来の解釈とは異なる考古学のいわば定説に真っ向から挑戦される先生のお話には、当日の110名の参加者の皆さんには、驚嘆された方もいらっしゃるかもしれませんが、傾聴すべき点が多く、

貴重な機会となりました。

今後とも、考古学や関連する分野の最新の研究成果について皆さんにご紹介していきたいと思っております。



平成19年度 発掘報告会「いしかわを掘る」

平成19年度、石川県下では約60件・9万㎡余の発掘調査が行われました。そのなかの主な成果を担当の調査員が発表する本報告会は、平成20年3月9日(日)、石川県立生涯学習センターにて開催されました。

珠洲市から小松市まで6件の報告では、金沢市直江(なおえ)北遺跡や白山市五歩市(ごほいち)遺跡といった弥生～古墳時代の集落跡や、北陸最古級の古代山林寺院である小松市松谷まつたに寺跡、さらには、七尾城跡や金沢城跡といった中・近世の城郭まで、多様なものがありました。

なかでも、全国最古の木製笠塔婆と板碑(表紙)が出土し、『餓鬼草紙』の写実性を実証した珠洲市野々江本江寺遺跡の報告では、実物大の写真パネルなど、関連資料を会場に展示し、180名の当日の参加者の皆さんには、考古学ならではのその意義について、理解を深めていただけたかと思っております。

今後とも、調査成果のできる限り早く深い報告に心がけていきたいと思っております。



平成20年度 まいぶんセンター行事予定

4月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

古代体験

手形・足形づくり& 特製まが玉づくり (4/26 ~ 5/6)
夏休み「はびわ」づくり (7/19 ~ 8/11)
体験 古代の文房具 (11/1 ~ 11/7)

古代体験学習講座

- 5/1 青銅器づくり
募集：小学校5年生以上20人
募集期間：4/7 ~ 5/14
- 6/29 糸づくり&ひもづくり
募集：小学校5年生以上20人
募集期間：5/7 ~ 6/25
- 9/15 縄文土器づくり
募集：小学校3年生以上20人
募集期間：7/23 ~ 9/10
- 10/19 古代須恵器づくり
募集：小学校5年生以上20人
募集期間：9/1 ~ 10/15
- 12/7 体験 古代の宴
募集：小学生以上20人
募集期間：10/20 ~ 12/3
- 3/1 縄文手提げづくり
募集：小学校5年生以上20人
募集期間：1/13 ~ 2/25

古代の「暮らし」体験講座

8/30 親子で古代の暮らし体験
募集：小学校4年生以上とその保護者20組
募集期間：7/16 ~ 8/27

古代体験まつり

10/4・5 10:00 ~ 16:00

出前

移動講座
「まいぶん出前展」のご・かがもぐる
能登：7/6 13:30 ~ ； 珠洲市立中央図書館
加賀：7/13 13:30 ~ ； 加賀市 山中温泉文化会館
親子の発掘体験教室
7/26・8/9
募集：小学校4~6年生とその保護者各20組

講座

まいぶん考古学講座「暮らしの考古学」
(5/25 ~ 6/22の毎週日曜日 13:30 ~ 15:00)
講座 考古学最前線「弥生時代最新事情」
(11/9 13:30 ~ 石川県立生涯学習センター)
発掘報告会「いしかわを掘る」
(3/8 13:30 ~ 石川県立生涯学習センター)

展示

加賀郡勝示札春季公開 (4/25 ~ 5/6)
いしかわの発掘展「土器物語」 (7/18 ~ 8/31)
加賀郡勝示札秋季公開 (9/19 ~ 10/6)

まいぶんセンターの個人・団体古代体験

個人の随時体験は予約不要で月替わりのメニューを体験いただけます。
団体体験・施設見学については、平日・要予約です。

出前考古学教室

学校や公民館などへ職員が出かけ、遺跡からの出土品などを活用して、体験学習・ミニ展示・ミニ講座・報告会などを行います。

会員募集中

まいぶん友の会

まいぶんセンターが実施する発掘調査や各種行事など、「まいぶん情報」の提供が受けられる会員制情報サービスです。
(会費：年額1,000円)

古代
体験

平成19年度 古代体験学習講座「古代の食器づくり」

平成19年10月28日(日)、「古代の食器づくり」が行われました。平成13年度から「須恵器づくり」として開催している本講座ですが、今回は、続いて行う「復元 古代食」に関連して、須恵器の中でも「食器」を中心に製作しました。

参加された皆さんともども、成形は何とかもののできましたが、11月22日(木)から25日(日)まで、復元古窯での昼夜を通しての焼成は、昨年度、数点の作品が割れてしまったこともあり、例年にも増して緊張したものとなりました。

はたして、12月3日(月) 窯出しの瞬間はドキドキでしたが、下の写真(中央)のとおり、無事、須恵器による古代食の復元が可能となり、ホッと胸をなでおろすことができました。



古代の食器づくり「成形」の様子

平成19年度 古代「祭・食」体験講座「復元 古代食」

平成19年12月9日(日)に開催した本講座では、古代の文献の記載などを参考に、赤米(古代米)の強飯(こわいい)、野菜の和え物、鶏肉とカブ菜のあつもの(汁物)、イカの炙りもの、カブの漬物、小豆餅、蘇(乳製品の一種)の計7品の調理・加工・試食体験を行いました。



美味しい料理のために、頑張ってます。



復元製作した須恵器の食器に盛りつけて、出来上がり!



出来上がりをさっそく試食。美味しくできたかな?

平成19年度 古代体験学習講座「布を織る」

平成20年3月2日(日)に開催した本講座では、復元地機で裂いた布を緯(よこ)糸に使う平織りの布を、高機で綾織りの技で菱形模様の布を織り上げました。手、足、腰などをフルに使った織機の操作に皆さん苦心されていましたが、織りあがった布を手にした際には満ち足りた趣が窺えました。



地機は、体を使って織ります。これがなかなかむずかしい。



布の耳がうまく織れているか、注意深く見えています(高機)。



織りあがった布の端は、結んでほつれないようにします。

収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。
今回のテーマは「食」です。

収蔵品No.14

ひょうたん^{ひしゃく}柄杓 - 金沢市 藤江C遺跡 -

本収蔵品は、藤江C遺跡第7次調査でB区SE001と名付けられた古墳時代後期の井戸から出土したものです。ひょうたん(瓢箪)は縄文時代から利用されており、出土例も少なくはありませんが、柄の一部が失われているとはいえ、このように全体の形がわかる例はそれほど多くありません。

ひょうたんにはさまざまな形があるようですが、本品には、ぎぼうし(擬宝珠)型と呼ばれる下膨れの形態のものが用いられ、側面に穴を開け、へた(蒂)の部分から丸棒を差し込んで柄としています。

ところで、柄杓は何に使われたのでしょうか。平安時代の法律の施行細則である「延喜式」には、酒あるいは酒を入れる容器の記載とともに、ひょうたん柄杓を表す「匏ひさご」がたびたび登場することから、当時、酒に関わる道具として用いられたらしいことが指摘できるそうです。

SE001は古墳時代の井戸ですが、ひょうたん柄杓が出土した層からは、土師器(はじき)の甕(かめ)・高杯(たかつき)とともに「ぐいのみ」のような形をした小型土器が出土しています。平安時代の事柄が古墳時代にまで遡れるかどうかはわかりませんが、ひょっとすると、藤江C遺跡でお酒を伴う行事(儀礼行為)が執り行われ、そこで使われた道具がこの井戸の中にまとめて捨てられた、という風に想像をふくらませたくになります。



訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

県指定史跡 ちゅうだ いたび 中段の板碑

輪島市中段町の山裾、「アミダドウ」と呼ばれる平坦地に青い板石で造られた一基の板碑があります。この板碑は、三角形の頭部をもつ阿弥陀三尊種子板碑で、高さ129cm、幅36cm、厚さ4cmを測り、碑面中央に阿弥陀三尊の種子である「キリークあみだにょらい（阿弥陀如来）」、「かんのんぼさつ（観音菩薩）」、「せいしほさつ（勢至菩薩）」を彫り出しています。

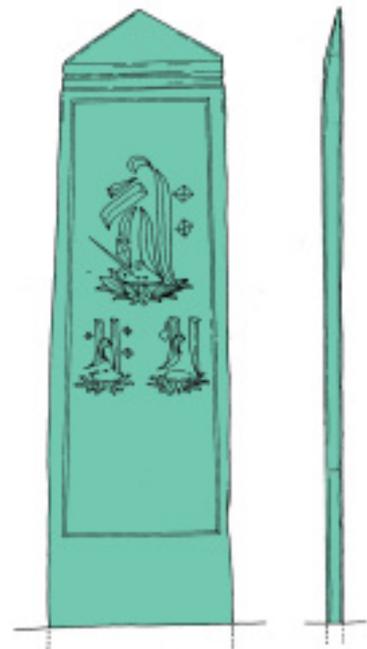
板碑の素材は、埼玉県秩父の荒川上流に産地をもつ緑泥片岩りょくでいへんがんで、石川県内では類例の無いものです。製作時期は鎌倉時代末期で、「武蔵型板碑」の特徴をよく備えていることから、武蔵の地で製作され、能登に運び込まれたものとみられています。

さて、この板碑は、その特異さから早くより注目され、すでに大正時代には研究者によって報告されており、近年は歴史資料としての詳細な再評価もなされています。

今回、珠洲市野々江本江寺遺跡より木製の板碑（表紙）が出土し、「中段の板碑」にも関心が寄せられました。これを機に、ぜひご覧になられてはいかがでしょうか。



板碑のある小堂



所在地：輪島市中段町

交通：能登中央バス小伊勢バス停より徒歩5分

お問い合わせ：輪島市教育委員会文化課

電話 0768-22-7666